

# 被災地で見た光景



元日に発生し、石川県能登地方を中心に大きな被害をもたらした令和6年能登半島地震。被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。被災地支援のため、当市からは3人の職員を派遣しました。1月16日から23日までの間、輪島市で避難所運営の支援にあたった3人に、被災地の現状や今回の経験を通しての皆さんへのメッセージを聞きました。



## 言葉を失う光景が目の前に

被災地を見た第一印象は、輪島市内に入って、倒壊した家屋や亀裂の入った道路を目の当たりにして、あまりにもひどい光景に、はじめは実感が湧きませんでした。テレビのニュースで見ると、実際に足を運んで見るのとでは、あまりにも違いすぎる。これが住み慣れた思い入れのある自分たちのまちだったら……。被災者の方の心情を思うと、言葉が出ませんでした。

## どのような支援業務を。

私たちは、一次避難所となっている輪島地方合同庁舎で避難所運営の支援を行いました。津波から逃げようと避難してきて、そのまま滞在する方が多く、約120人が避難していました。私たちが到着したのは発災2週間後だったので、人数は少し減っていたと思いますが、24時間交代で、食事の配膳や日々の給水の支援、物資の受け入れなどの業務に当たりました。避難者の方からの要望・相談などは、現地の職員や自治会長と協力しながら対応していました。

## 被災者に触れて感じた、人のつながりの大切さ

### 被災者の方とはどんな会話を。

さまざまな年代の方が一緒に過ごしているため、消灯・起床時間などの違いで意見が出ることはありました。しかし、意外にも被災者の方から悲痛な言葉を聞くことは少なかったです。明るく前を向いている方が多い印象でした。理由を聞いてみると、「前を向いていないと気持ちが暗くなっちゃうから」とのこと。今後のことを考えながら、ポジティブに振る舞われていました。それでも、被災者同士の会話では、潰れた家のことや身近な人が亡くなったという話も聞こえてきて、辛い現実と直面されていることを実感させられました。

### 西条市民へのメッセージを。

日頃の備えが何より肝心だと身をもって感じました。発災直後は慌ててしまい、取るべき行動がなかなか取れないもの。いざ何か起きたとしても、自身や家族の行動マニュアルを決めておいたり、数日分でもいいので必要最低限の物資を準備

## 避難所の中の様子は。

建物の中といっても空調は効いておらず、夜はマイナス2℃まで冷え込みました。皆さん毛布を何枚も重ねて寒さをしのいでいましたが、中には体調を崩してしまう人も。お風呂は基本的にシャワーで、みんなが入れるよう時間が決められていて、急いで入らないといけません。外には簡易トイレが設置されていましたが、人の気配が気になったり、風で倒れることがあったりと気兼ねなく使える状況ではありませんでした。また世帯を分ける仕切りが足りておらず、プライバシーが確保できていない状況も見受けられました。

また、地震のような非常時には特に、身近な人とのつながりが大切になってきます。ご近所でも、職場でも、趣味仲間でもいい。誰か気に掛けてくれる人がいれば、助かる命も増えると思います。実際に、地元の人に詳しい自治会長が、発災後見掛けない人に気付いて、捜索し助け出したことがあったと聞きました。困ったときに、お互いに助け合える関係を普段から築いていただきたいと思います。

今回の災害を「自分ごと」として捉え、普段からできることを今一度考えてみてください。

## 義援金募金箱を設置しています

皆さんの温かいご協力をお願いします。集まった義援金は、日本赤十字社に送金します。(令和6年12月20日(金)まで)

### 募金箱設置場所

西条市庁舎1階、西部支所1階、丹原・小松サービスセンター1階、各公民館、市内各図書館  
※物資は取り扱いできません



社会福祉課 高橋優介 長寿介護課 山高 能 国保医療課 目山公裕

1月15日に行われた派遣職員出発式での3人



# 今後来るべき 地震に備えを

当市でも地震が発生すると、古い家屋の倒壊や土砂災害、火事、津波などで大きな被害が想定されます。地震の発生を止めることはできませんが、正しく恐れ、普段から備えることで被害を抑えましょう。

南海トラフ巨大地震

30年以内の発生確率 **70%~80%**

最大津波高：**3.4m**

西条市の被害想定

人 死者：**3,648人** 負傷者：5,383人  
愛媛県内最多

建物 **全壊：33,132棟 半壊：17,541棟**  
半数以上が**全半壊** (全建物数：85,887棟)

※平成25年12月26日公表「愛媛県地震被害想定」より

## 今日からできる備え

生活に必要なものを備蓄しておこう 最低3日分（できれば7日分）

- 飲料水 1人1日3ℓ、3日分で1人分9ℓが目安
- 食料品 クラッカーや缶詰など調理せずに食べられるもの、普段食べ慣れているもの
- 携帯トイレ 1人1日5回分、3日分で1人15回分が目安  
できれば7日分で1人35回分が理想 ※ホームセンターなどで購入可
- 生活用品(例) 衣類・下着、靴、ティッシュ、トイレトーパー、ラップ、ごみ袋、おむつ、おしりふき、救急用品 など



## 家具を固定しておこう



- 大切なのは、「けがをしない」と「自らの命を守る」こと。  
倒れた家具や家電などの下敷きにならないよう、しっかりと固定しておきましょう。
- タンス・本棚は壁面に設置して、L字金具やストッパー、ポール式器具などで固定しよう
  - テレビはできるだけ低い位置に設置し、ワイヤーなどで固定しよう
  - 冷蔵庫は裏側をワイヤーなどで壁に固定しよう

## 在宅避難も考えよう

地震発生後に避難所で生活することだけでなく、自宅や親戚・知人宅で安全を確保する「在宅避難」も有効です。自宅が安全であれば、在宅避難の方が普段の生活に近い環境で過ごせます。

【避難先による環境の違い】

	避難所 (公民館など)	在宅避難 (親戚・知人宅を含む)
目的	長期的な避難生活	短期～長期の生活
1人当たりのスペース	狭い(5㎡程度)	自宅の状況に応じたスペースの確保が可能
プライバシーの確保	難しい	確保しやすい
水・食料	最低限の配布	自分で準備 ※避難所で水・食料や情報を得ることもできます
断水・排水管 損傷時のトイレ	仮設トイレ・簡易トイレ 携帯トイレ	自分で準備 (携帯トイレなど)
ペット	屋外での一時飼育	いつでもどおり

## 今、私たちにできること

インターンシップで市役所に来た西条高校生が、高校生目線で被災地のためにできることを考えてみました。被災地へ派遣された職員に取材し、記事を書いてくれました。



記事は▼



## ▶問合せ

市庁舎新館5階 危機管理課  
TEL0897-52-1283